

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科					
科目名称	子育て支援				授業形態	演習				
科目コード	750170	単位数	1単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	若宮 邦彦								ICT活 用	
授業概要	<p>この講義では多様化・複雑化する保育・子育てニーズに対応するために、保育の専門性を背景とした相談支援の特性と具体的展開方法を学ぶ。また、地域子育て支援や多職種連携の意義についても学ぶ際に要保護児童対策地域連絡協議会委員やコミュニティソーシャルワーク実践に携わっていた経験も授業に取り入れる。</p> <p>保育者が行う子育て支援について、様々な場面やクライアント(対象者)のニーズに即した支援の内容と方法、及び技術を実践事例等を通して講義する。ケースワーク(相談援助)場面、要保護児童対策地域連絡協議会委員としての経験も授業に取り入れ、事例に基づいた講義をする。</p>									
関連する科目	社会福祉、社会的養護Ⅰの履修が望ましい。履修後は社会的養護Ⅱの理解が望ましい。									
授業の方法と進め方	<p>テキスト、参考文献のみでなくレジュメを作成・配布してポイントを整理する。パワーポイントを活用し理解を深めるとともに事例検討等のワークショップを多用し、体験型授業を展開する。アクティブラーニング型授業を展開します。</p> <p>授業の前半では子育て支援の定義・意義と基本的な支援方法を習得する。後半では保護者支援におけるケースワーク理論を習得するとともにロールプレイ、探求学習(個人ワーク・グループワーク)等を通じ、理論知を実践知に関連付けながら理解を深める。</p> <p>毎回、リアクションペーパーを配布。感想、質問等を確認し次回の授業の際に公開し、共有化を図る。</p>									
授業計画【第1回】	第1回 オリエンテーション。子育て支援を学ぶ意義を確認する。									
授業計画【第2回】	第2回 子育て支援の基本的姿勢。 ソーシャルワーク実践としての児童福祉専門職の位置づけと基本姿勢を学ぶ。									
授業計画【第3回】	第3回 子育て支援の基本的技術。 コミュニティワーク(地域福祉)とケースワーク(相談援助)を軸とした枠組みと技術の概要を学ぶ。									
授業計画【第4回】	第4回 特別な支援を必要とする家庭への支援 特別な配慮を要する子どもや障がいのある子どもを育てる家庭、養育上の不適切な関りがある保護者の事例を通じて学ぶ。									
授業計画【第5回】	第5回 相談援助における面接の意義、コミュニケーション、援助関係について コミュニケーションの定義、種類、ケースワーク理論の基本を学ぶ。									
授業計画【第6回】	第6回 面接とコミュニケーション。 ロールプレイ、事例検討を通じ、具体的なコミュニケーションスキルの効果を体感する。 カウンセリング理論の実践知への応用を試みる。									
授業計画【第7回】	第7回 自己覚知のスーパービジョン(ワークショップ) 言語的・非言語的コミュニケーションの基礎、具体的な応用方法についてワークショップやロールプレイで学び、専門職に求められる自己覚知の意義を学ぶ。									
授業計画【第8回】	第8回 社会資源の活用と関係機関、専門職との連携の意義。 事例検討を通じファミリーソーシャルワーク、ケアマネジメントに関する知識を学ぶ。									
授業の到達目標	<p>1. 子育ての現状と課題に対する子育て支援の意義と必要性、支援者の役割、保育の専門性を生かした子育て支援の方法と技術を理解する。 【知識・理解の獲得】</p> <p>2. 社会福祉専門職である保育士が担う保護者支援におけるケースワークの基礎理論、多職種連携のためのネットワーキングの方法と技術を理</p>									
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)									

授業時間外の学習【予習】	授業中に次の授業内容（予習箇所）を提示します。テキスト並びに配布資料について授業毎に20分程度の予習をしてください。
授業時間外の学習【復習】	リアクションペーパーを書く際に想起した事、配布資料とパワーポイントをリンクさせながら授業毎に30分程度の復習をしてください。
課題に対するフィードバック	レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をします。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1. 定期試験40点、2. レポート提出30点、ワークショップ等30点。
テキスト	西村重稀・青井夕貴 編 新基本保育シリーズ『子育て支援』 中央法規出版、2019年 その他、適宜レジュメを配布する。
参考書	井村圭壯・相澤譲治編著 『社会福祉の相談援助』 久美株式会社、2012年 小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集 『演習・保育と保護者への支援』 株式会社みらい 2017年
備考	